



2013年10月1日 発行

奈良教育大学 大学院  
教育学研究科 教職開発専攻  
〒630-8528 奈良市高畑町  
TEL & FAX 0742-27-9354  
<http://www.nara-edu.ac.jp>  
発行 奈良教育大学 教職大学院広報係

## 目次

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・P.1   | (2)ホームカミングレクチャーに参加して・・P.3 |
| 2. 十津川サマースクール・・・・・・・・P.2    | 5. テーマ発表会・・・・・・・・・・・・P.4  |
| 3. 学校実践Ⅱを終えて・・・・・・・・P.2     | 6. 案内・・・・・・・・・・・・・・P.4    |
| 4. 先輩と後輩との学びをつないで           | 7. あとがき・・・・・・・・・・・・P.4    |
| (1) ホームカミングレクチャー・・・・・・・・P.3 |                           |

### 1 巻頭言

#### 「原点」を掴む・・・

十津川村教育長 永曾 昌弘

今夏 8 月 22 日、昼過ぎ役場前発のバスで、奈教大教職大学院の学生さんたちが、十津川村を後にした。同じ方面に帰宅する児童も同乗した。日本一長い路線定期バスは久々に混んだ。今年の「サマースクール」関係者の帰宅である。3泊4日の十津川合宿で、院生の皆さんは、何を体験・体感し、何を掴んで天辻峠越えされたのだろうか・・・。



本年度 5・6 年生児童は、村全体で 51 人である。「サマースクール」に参加したくても、自分の意思だけでは参加できない子らがいた。定期バスすら走っていないところに住む子らにとって、親の協力等が無ければ参加できないのだ。広大な本村では、村内全域の子どもたちを、1ヶ所に集め、そして帰宅させるのは、なかなか難しい。確実に進む少子化で、学校は小規模校化。その中で、本村では「学校統合」を推進。それは自ずと校区の拡大であり、子らは自分の力だけでは通学できなくなった。ましてや、道草など、食いようがない・・・。

先生を目指す院生の皆さんが、この「合宿」で、素敵な先生になる根っこのようなものを掴んでくれればいいな、と私は願い皆さんをお迎えしています。子らに、勉強することの楽しさを、知ることのすばらしさ等を実感・体感してもらおうと用意する学習指導計画・・・。寝るのも惜しんで仲間と「協働」で精一杯の準備！そして、実践・チャレンジ！ご褒美は、子らの反応・笑顔です。

子らは、それぞれが、すばらしい可能性を授かっています。それに気付かせ、その発揮のお手伝いが、私は教職だと思えます。それぞれの先生は、何よりも子ども好きであり、人間好きであっていただきたい。学習内容（指導内容）をしっかりと理解し、身に付けていただきたい（注：学習指導要領に示されるものだけを指すのでは、決してありません）。誰よりも、上手に教えられる先生になっていただきたい。そして「自分の“森ビル”」をつくっていただきたい。あの「合宿」のような日々を、任地となる学校で送る先生になっていただきたい。

幼児性を残す小学校入学時。ギャングエイジを経て、思春期・反抗期に至る中学生。個々それぞれが大きく変化しつつ成長していく多様な子たちが学ぶ学校。そのどの子どもも、皆立派になり、人様から喜ばれる人になりたいと願っている。子らは、できる力を授かっている。その子らと共に過ごせる教職は、正に天職そのもの。あの「十津川合宿」が、その天職の「原点」を掴む切っ掛けに少しでもなれておれば、幸いです。

ご指導同宿いただいた諸先生方に、心からの感謝と敬意を表します。

## 2 十津川サマースクール

ストレート院生 (M1)

島 俊彦

8月20日(火)～8月22日(木)の3日間、奈良県の最南部、日本一大きな村として有名な、十津川村の小学校第5・6学年の児童を対象に、奈良教育大学教職大学院と十津川村教育委員会が協力して、子どもたちにとって学ぶ楽しさや分かる喜びを味わい、多くの人と関わる機会をつくる、「十津川サマースクール」が開催され参加しました。

私はサマースクールに参加して、多くの事を学びました。その中でも特に大きな学びが2点あります。

1点目は「授業づくり」です。今回のサマースクールでは、国語、算数、理科で計8時間の授業を院生が担当させていただきました。子どもたちにとって、「楽しかったな」「また受けたいな」と思ってもらえる授業にするためには、どうすれば良いかを考えました。子どもの学びを第一に考え、院生が責任を持って事前の教材研究や授業準備を進めてきたことが、各教科で子どもたちにとって楽しい授業が出来たという結果につながったとともに、教員の道へと進んでいく私たちの成長にもつながりました。

2点目は「チームとして取り組む」です。サマースクールでは参加した11人の院生が、各教科の授業でTT体制を取り入れました。全員が一つのチームとして連携・協力して、事前の授業構想や打ち合わせ、当日の授業を展開する事ができました。そのことから、授業やプログラムづくりは一人の力でおこなうものではなく、皆で創り上げていくものであると学びました。このようなチームで対応する力は、学校現場に出た際、教員として求められる資質・能力です。サマースクールが、その基礎を養う良い機会となりました。

今回のサマースクールで得た学びをその場限りのものとせず、院での学びに確実につなげ、高い実践力と専門的な理論を持ち合わせた教員へと成長していきたいと思えます。



## 3 実践Ⅱを終えて

ストレート院生 (M1)

古谷 悠貴

学校実践Ⅱで6月の2週間、奈良市立都南中学校でお世話になりました。実践で出会った生徒との関わりを通して、私の学校観の幅が広がったように思います。

ある授業で、「わからない」、「なんでこんなこと勉強するの」と、学習する意味を見いだせていないという自分の感情をストレートに表現する生徒と出会いました。このような子どもの発言は学級全体に“そう思っている子どもがいる”というバロメーターであり、教員はその都度自分の発問や指導の仕方を振り返る必要があると感じました。このことから直接気持ちを表現できる生徒は一部であり、誰も「わからない」と言わなければ全員がわかっている、といった判断は決してしてはならないと痛感しました。

また、放課後には部活動(バドミントン部)に参加し、授業時間外での生徒との関わりを通して個々人の興味関心などを知りました。実践終了後も関わらせていただき、試合での普段と違う子どもの真剣な表情、一生懸命に応援している姿を見ることができたことで、部活動の大切さの一端を見ることができたように思います。



中学校教員を志望する私にとって、実際の学校の様子を見せていただいたこの機会は貴重なものとなりました。自分が抱いていた「学校」というイメージに当てはめることなく、その学校のスタイルに合わせて指導することの大切さを学び、その学びを学校実践Ⅲに向けての姿勢に活かしていきたいと思えます。

都南中学校で会うことができた生徒の皆さんや先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 1) ホームカミングレクチャー

教職大学院特任准教授 松井秀史

本教職大学院では、学び続ける教員像の確立を目指して様々の取組を行っていますが、今回、本年度から新たな試みとして取り組んでいる「ホームカミングレクチャー」について紹介します。「ホームカミングレクチャー」とは、教職大学院の修了生が講師としてホームカミングし、院生や学部学生にレクチャーをするなかで、院生や学部学生が教科指導や生徒指導等についての実践知を得て、実践的指導力を高めることをねらいとしています。また、そのことによって、修了生自身が、平素から自らを高めるために学び続け、世代交代が急速に進む学校現場での指導力を発揮することにつながる効果にも着目した取組です。

講義の内容は、院生が10月から学校実習を控えていることを踏まえ、算数、国語、社会、理科、学級活動について実施し、修了生にはその時期に照準を合わせ、教材分析や学習活動の展開、学習指導要領のねらい、子どもの思考を促す発問の在り方、そしてそれらをどのように指導案に表すのか、また板書計画についても、具体的な教材をもとに各回約2時間30分をかけて講義をしてもらいました。

今後、その効果が院生の実習中の指導など実践的な場面で現れることなどに期待を寄せていますが、これまでに明らかになったことについて3点ほど挙げておきたいと思います。一つは「院生の授業研究に臨む姿勢の深化」です。教えることを、子どもたちに如何に分かりやすく、深く展開するかということの大切さを改めて認識したと言えるのではないかと思います。特に、修了生が、授業研究ノートを作成し、それをもとに指導案を作り上げ、授業に臨んでいる姿には、感銘を受けたようでした。二つ目は、「修了生の研究意欲の持続と指導力の洗練化」です。講師を務めてくれた修了生は口を揃えて「院生の悩みやニーズを的確に把握することができ、校内で指導的立場にある教員としてこれからはすべしことが明らかになった。この講義のために教材研究を一生懸命やってきたが、今回の気づきを今後生かしたい。」と話しており、この経験を踏まえて学び続ける意欲を見せてくれています。三つ目は、「専門性を学び合う共同体の形成」ということです。院生は、自分たちが教壇に立てば同僚となる修了生から講義を受けるということで、親和的な雰囲気の中にも優れた実践や理論を学ぼうとする意欲に溢れ、持続可能性のある学びのネットワークが形成される雰囲気が醸成されつつあるように思います。

今後の方向性としては、修了生に院生の学びにとっての重要なヒューマンリソースとして活動してもらうことにより、院生とともに「理論と実践の往還を基盤にした学びの循環」を形成し、修了生の所属する学校や連携協力校とも連携できるような授業研究プログラムへ進化を図っていきたいと考えています。

## 2) 教職大学院での学びを通して得られたもの

葛城市立磐城小学校教諭 岡島眞寿美

第2期修了生(2010年度修了)

過日、教職大学院で開かれたホームカミングレクチャーに参加しました。学生さんたちが、熱心に学ばれている姿に感銘を受けたと同時に、自分自身も初心に戻ることができました。そして、学び続けることの大切さを改めて心に刻むことができました。さて、現在、教職大学院を卒業して二年近くがたちましたが、年月を経るほど、学んだことが教育現場で生かすことができていると実感しています。教職大学院での学びを通して得られたものは、たくさんありますが、その中でも、今も生かし続けられていることが二つあります。一つ目は、「理論と実践の往還」です。私は、子どもたちの成長を願い、生き生きと学んでいる子どもたちの顔を見るために、授業をしたいと考えています。そのためには、常に研究者としての学びと実践者としての授業力が求められます。その姿勢や学び方を、教職大学院で得ることができました。教員として、どのように学び続けることが大切なのかを見つめ直し、実践することの大切さを考えることができました。二つ目は、「協働して学び合う」ということです。教育現場では、様々な出来事に直面します。一人の力では困難な場面もたくさんあります。しかし、様々な知識や経験を積んだ教員同士が協働して学び合い、よりよい現場にしていくことが大切です。そのための専門的な知識も学ぶことができ、実際に、現場でも生かすことができます。

これからも、教職大学院での学びを通して得られたもの大切にし、子どもたちの学びを支えることのできる実践者として、自分自身の学びを教育現場で広げ深めていきたいです。

## 5 現職教員院生研究構想発表会・3年コース教育実習報告会



7月3日に、M1 現職教員院生3名と3年コース5名の発表会・報告会が行われました。M1 現職教員院生3名は2年間取り組んでいく研究テーマのデザインを、3年コースは6月3日～14日の期間、奈良教育大学附属小学校で行われた2週間実習の学びを報告しました。質疑応答も活発に行われ、発表者にとっては個々の課題が見つかる有意義な時間になりました。

### 報告会を終えて

3年コース 杉原 侑太

私は報告会で「ハードル走をする意味をどう考えていますか」という質問を受けました。私は自分の思いのままを回答しましたが、その回答は不十分なものでした。私は教育実習の間、ただ授業をすることだけに気をとられ、なぜこの種目を勉強しなければならないかまで考えていませんでした。この質問によって、児童がなぜその単元を学ぶかという意味を教師が考えることが教材研究の始まりであるということがわかり、この意味を教師が持っていなければ児童の学びは薄いものになってしまうということが分かりました。実習中は意味など考えず、ハードルを跳ぶか等の方法をどうやって児童たちに教えるかを考えていました。方法を教えることは簡単です。しかし、学習指導要領に沿って、その教科を通して何を教えるかを意識しなければなりません。そこが欠けているということを報告会の中で気付くことができました。



この報告会は、私にとって授業を考える大きなきっかけになりました。意味を考えることは授業計画のスタートラインだと感じました。報告会に参加していただいた先生方や先輩方、同期のみなさんには多くの意見や質問をいただきました。これから経験すること全てを自分の力にできるように、そしてこの経験を大事にしてこれからの教職大学院での勉強に励みたいと思います。

## 6 案内

### 現職教員 (M1) 学位研究報告発表会・学校実践Ⅲ・Ⅳ報告会

期日：平成25年11月15日(金)

時間：10:00～11:40 学位研究報告書中間発表(つばさ)

13:15～14:10 学校実践Ⅲ報告会  
(教育実践開発研究センター多目的ホール)

15:25～16:05 学校実践Ⅳ報告会  
(教育実践開発研究センター多目的ホール)

### 入学試験(二次募集)

出願期間：平成25年12月6日(金)～12日(木)

※郵送の場合は消印有効

学力検査：平成26年2月9日(日)

合格発表：平成26年2月13日(木)

### ～入試個別相談を開催します～

日時：平成25年10月25日(金) 17:00～19:00

場所：教職大学院棟 1階 R-13 103(すばる)

問い合わせ先：奈良教育大学 入試課

TEL: 0742-27-9126 E-mail: [nyuusi@nara-edu.ac.jp](mailto:nyuusi@nara-edu.ac.jp)

※他に、11月2日(土) 13:00～15:30 大学主催・大学院入試個別  
相談会が開催されます。詳細は、本学HPをご覧ください。  
なお、メールによる相談も随時行っております。

## 7 あとがき

ことのほか猛暑であった今年も、彼岸が過ぎ・・・ようやく爽やかな時候になりました。あちこちで稲刈りも始まり、豊かな実りを満喫できる秋です。同じく暑い最中に教員採用試験に臨んでいた院生にも、朗報が届いています。

本号では、「十津川サマースクール」の十津川村永曾昌弘教育長からご寄稿をいただきました。教育の「原点」を忘れることなく、赴任した学校で「人づくり」「学級づくり」「学校づくり」を实らせて欲しいとの教育長の願いが込められています。理論と実践の往還を通して教員としての専門性、実践力を高めていくことの必要性を、あらためて強く感じたところです。(樋口)